

2026年度予算編成方針

I. 予算編成に当たって

創立150周年に向けた長期ビジョン「MEIJI VISION 150」（2021年策定）では、10年後の明治大学のあるべき姿をビジョンとして定めるとともに、これを推進するための財政計画として2031年度までに予算編成時の基本金組入前当年度収支差額（以下、「収支差額」という。）を50億円の収入超過とすることを掲げています。

これまでの本学の財政状況は、決算の収支差額で見ると、2013年度、2014年度は支出超過となりましたが、2015年度以降は緩やかに回復し、コロナ禍の影響により14.6億円の収入超過に留まった2020年度を除き、財政健全化の傾向にあります。

2026年度予算の編成にあたっては、教育研究環境の整備を推進し、教育研究活動の持続性を一層強固なものとするため、長期ビジョンを具現化するための目標値を定めた第3期中期計画（2022年度から2026年度までの5年間の計画）に基づき編成することを目標とします。

II. 予算編成上の主な内容

1. 教学に関する主要課題

2026年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について（学長方針）における以下の指針を強く意識しながら予算編成を行います。

(1) 教育

各学部等の独自性と自主性を保ちつつ、本学が有する総合性と多様性を活かして、強くしなやかに連携する教育体制を整備することによって、複数の視点を持ち、自ら考え、自ら未来を切り拓く力を備えた、世界社会においても活躍できる人材の育成を行います。

(2) 学生支援

学生一人ひとりの多様性や資質に即した教育基盤としての学生支援の強化・充実を図ります。

(3) 研究

10学部16研究科が支える自然・社会・人文・応用科学と社会における実践的知見がしなやかに緊密に協働できる研究体制を構築します。

(4) 社会連携・社会貢献

本学の圧倒的な人的資源、知的資産、ネットワークを活用すべく、学内

諸機関がそれぞれの特性を生かしつつも柔軟に連携し、また国内外の社会とも連携を深めます。それによって、社会の諸問題の解決に貢献していきます。

(5) 大学運営

建学の精神と理念に基づく教育研究活動を継続的・安定的に維持・発展させるとともに、その担い手一人ひとりを尊重する大学運営を推進します。

2. 施設・設備計画

(1) 各キャンパス等の施設計画

各キャンパス等の施設計画については計画の検討状況に応じて予算措置を検討します。

(2) 将来的な建替え及び大規模修繕に備えた資金計画

竣工後50年を経過している主要建物が2025年度末の時点では13棟を数え、老朽化施設の建替え及び修繕が早急に必要になることから、2023年11月の理事会において策定した今後の施設整備のための資金計画に基づき、毎年度75億円の財源を確保することを目標とします。なお、物価上昇に伴う建設費の高騰や施設整備計画の検討状況に応じて、適宜資金計画の見直しを行います。

(3) 情報環境整備

2021年9月の理事会において策定した情報化戦略に係わる情報環境整備の方針及び資金計画方針に基づき、複数年度にまたがる大規模なシステム更新等に対応するため、必要に応じて、情報化戦略推進引当特定資産への繰入れを行います。

3. 人事計画

(1) 専任教員（特任・客員教員含む）任用計画に基づく予算措置

(2) 職員の人事計画に基づく予算措置

を原則としますが、過年度実績を考慮した予算措置を行います。

4. 財務計画

2026年度予算は、原則として2025年度予算をベースに策定します。過年度の予算・決算の差異を分析したうえで、各部門からの要求を精査し、収支見込から算定される全学及び部門別の収支差額を勘案して編成します。物価高の影響を考慮しつつ財政健全化を推し進めると同時に教育研究環境整備のための資金計画を推進すべく、第3期中期計画に基づき予算編成することを目標とします。

(1) 事業活動収入

収入の主体となる学生生徒等納付金については、学部入学定員を充足させ収入を確保することが重要です。直近4年分の学部全体の入学者数を見ると、2022年度、2023年度、そして2025年度は定員を充足していますが、2024年度は未充足でした。2026年度予算では、引き続き、入学定員の充足を基本とし、これに収容定員充足率の適切な管理を考慮した学部授業料の収入を見込みます。

入学検定料収入については、近年の本学への志願動向を踏まえ今後どのように推移するかを考慮し収入額を見込みます。

補助金については、2024年度実績を基準に近年の補助金動向を考慮して見込みます。

本学が募集する寄付全般を「MEIJI VISION 150 募金」と総称し、「MEIJI VISION 150」で掲げる寄付金収入目標の達成に向け、積極的な募金活動を展開します。受託研究費等の受入れ強化、競争的外部研究資金や競争的補助金の積極的な獲得、大学施設の有効活用を目的とした学外団体への貸出し等も引き続き行います。

資金運用については、運用管理体制を整備したうえで、2023年度から一部長期資金において効率的な運用を開始しています。中長期的な財務基盤の安定及び強化のため、引き続き、資金運用収入の増加に努めます。

(2) 事業活動支出

「明治大学グランドデザイン2030」、「MEIJI VISION 150」、「第3期中期計画」及び前述の諸課題の実現に資する取組みに対して優先的に予算を配分します。

各種事業活動推進のための財源確保にあたっては、従来からの支出について費用対効果の検証を一層重視することにより、固定的な経費の見極めによる徹底した見直しを行います。新規要求についてはスクラップ&ビルドの考えのもとに、既存の予算を削減しその財源を明らかにして要求することを原則とし、提出された要求に対しては、効果や実績等を考慮して査定します。

なお、昨今の物価上昇に伴い、経常的経費の増加が避けられない状況にあります。それに見合う収入を直ちに確保することが難しいため、事業活動の選択と集中、経費の見直しによる再構築等により、まずは既存の予算枠の範囲内で対応することを原則とします。

(3) 基本金組入計画

① 第1号基本金

2026年度に取得する土地、建物、構築物、機器備品、図書などの

固定資産計上額を組み入れます。

② 第2号基本金

各キャンパス等の施設について、計画が具体化した時点で組入れを検討します。

③ 第3号基本金

教育及び奨学金の充実に向け、中長期的な視点による組入れを行います。

④ 第4号基本金

学校法人会計基準に基づき所定額を組み入れます。

以 上